

夏の講演会・講習会を開催しました

1日目はホテルアウィーナ大阪、2日目は大阪府立生野聴覚支援学校で夏の講演会・講習会を開催しました。1日目は会場に急遽席を追加するなど大盛況でした。会員外の先生方、関係機関の方々も含めて、今年の参加者数は□□□名でした。また、当日入会して下さった先生方が多く、昨年を上回る会員数になりました。

お盆過ぎでまだまだ暑い中でしたが、参加者の皆さんとても熱心に研修されていました。皆さんからお寄せいただいたアンケートをもとに、講座の様子をご紹介します。

参加者の感想

講演会 8月18日午前

「特別支援教育10年と専門性の方向」

（講師 筑波大学名誉教授 齋藤 佐和先生）

・「合理的配慮」や「子どもたちが言語獲得するにおいて」国の情勢や子どもたちの発達に合わせてどういう視点で教育を考え支援していかなければならないかをとても丁寧に話していただけたので、分かりやすくとても参考になりました。

・幼児期段階における言語指導について丁寧に話していただいたので、とても分かりやすかったです。「松」と「菊」の心がけ+α（見る、繰り返す）を大切にしながら子どもと関わっていきたいと思います。

・聾教育の変遷に触れていただき、今どこに立っているのか再認識することができました。合理的配慮の“合理的”ということばの響きとは逆に、“めんどくさからず時間をかけて、個人の納得のいく内容を見いだして配慮していくこと”だと、学ぶことができました。



講習会（講座Ⅰ） 8月18日午後【人工内耳装用—医療サイドから—】

「人工内耳装用児の長期的成果」 山口忍先生（大阪保健医療大学 教授）

「両側人工内耳の装用効果—聴取能を中心に—」 森尚彫先生（関西科学福祉大学 講師）

「EASの音楽聴取と装用の工夫」 近藤香菜子先生（京都大学医学部附属病院耳鼻咽喉科）



・1人ではなく3人のSTの話聞くことができ、良かったです。普段から子ども達がお世話になっている先生方なので、考え方や研究していることを聞ける良い機会でした。

・医療はどんどん発達し、私たちが想像していなかったことも出てくると思います。医療と教育が互いに協力、連携することの大切さを改めて感じる事ができました。

・医療サイドから人工内耳の早期装用あるいは両耳装用についての研究についてお話を聞くことができ、参考になった。近年、両耳装用の子どもが増えていて、しかも短期間に両耳手術、音入れという子どもが増えているのでメリット、デメリットが比較できて良かった。

・医療技術の進歩によって、難聴児の聴覚可能性が向上していることが良くわかりました。それに合わせた教育支援の在り方も考えていく必要があると感じました。

講習会（講座Ⅱ） 8月19日 午前の部

【聞こえの仕組みと聴力測定（午前、午後）】

・耳の聞こえのしくみの話や、難聴体験など普段はなかなかできない体験をさせていただき、とても勉強になりました。聴力測定の実習も初めてさせていただき、オーディオグラムの見方や書き方も勉強になりました。



【人工内耳の基礎】

・人工内耳のそれぞれの特徴が詳しくまとめられていてとても勉強になった。（それぞれの人工内耳の効果と問題点、装用年齢、内耳の状態等）これからの教育現場で生かしていきたいです。
・基礎といっても新しい人工内耳の情報が満載で、勉強になりました。

【キャリア教育の視点を踏まえた自立活動のねらいと実践例】

・高等部や社会に出た時に聴覚障害のある子どもたちが、どんな課題に直面するのか、困難を抱えるのかについて具体的に知ることができ、とても参考になりました。将来、社会に出た時の円滑なコミュニケーションに向けて幼稚部から取り組めることについて考える機会となりました。



【難聴学級での取り組み】

・学習言語力を育てていくための授業や教材の紹介は、子どもたちの指導を考えていく材料になりよかったです。また、「自己認識」「障害認識」の授業は単元として取り組むだけの時数はあるものの、やはり丁寧に「障害」「自分」を見つめさせる授業は大切だと改めて思いました。
・他校での取り組みを教えていただきたくて参加しました。言語指導のやり方、障害認識をどのようにさせるかなど、2学期からすぐに使える内容で期待通りでした。

【補聴器の仕組みと保守管理】

・補聴器の仕組みにつて、すごく分かりやすくお話をいただいて、私も保護者や新しい先生に説明するときに、このようにお話しできるようになりたいと思いました。
・とても分かりやすかったです。高等部なので、生徒自身が管理していますし、何をどう聞いていけば分からなかったのか、基本を教えてくださいました。ありがとうございました。

【はじめての補聴器フィッティング】

・とても丁寧なお話でとても分かりやすかったです。また、1つずつエクササイズとして自分で考える場をいただけたので、今まで何となくの理解だったものがよくわかりました。
・子どもがオーディオグラムと共にもらってくる補聴器調整のグラフが何のことやらさっぱり分からなかったが、今日の講座で良くわかった。学校に戻って早速見てみようと思った。



【実践報告】

・各校それぞれの実践をお聞きして、自分の毎日の指導に活かしたいことや保健師、養護教諭の先生の連携の大切さなど改めて視野を広げることができました。
・地域支援の仕事をしているのですべて役に立ちそうです。ありがとうございました。



【日本語と授業をめぐるマニアックな話とオタク的な話】

- ・日本語のおもしろさ、魅力を知ることができました。日本人だけではない日本語がたくさんあり、勉強不足を実感しました。
- ・日本語について本当にマニアック？なところについて考えることができました。普段使っている日本語なのに分からないことが多く、子どもに教える際にはもっと丁寧に自分が学んでおく必要があると思いました。



講習会（講座Ⅲ） 8月19日 午後の部

【聴覚障害にかかわる福祉制度】

- ・補聴器の申請方法など分っているようで分っていないことも多くあったので聞いて良かった。
- ・補聴器に関わる福祉制度の話を知りやすく説明していただけて良かった。特に補装具費支給制度の話を経中度難聴の助成についての話は参考になりました。

【オーディオグラムと補聴器の特性】

- ・とてもわかりやすい説明でした、実践を踏まえながらの講座だったので、良かったです。
- ・聞こえのこと、最新の補聴器のこと、復習も含めてとても勉強になりました。子ども達のコミュニケーションを手話のもとより、よりわかりやすく実践できるヒントをたくさん頂いたので、また2学期から頑張りたいと思います。



【FM（ロジャー）】

- ・実際に機器に触れることもでき、大変良かった。特に後半の情報保障についての話は、これぞ聞きたい話で良かったです。生徒の進路を考える上で重要なことを改めて教えてもらった。
- ・とてもわかりやすい講座と演習、ありがとうございました。UDトークもアプリをとったものの実践までには至っていないので、少しずつ活用しながら応用していけたらと思います。

【人工内耳の保守管理、装用者の体験談】

- ・CI※装用者の体験談、本当に話がよく分かりました。特に音に意味づけしていく大変さについての内容が具体的で分かりやすかったです。大人と子どもは違うという話もありましたが、やはり環境音を丁寧に説明していくことは今後改めて意識をしようと思いました。
- ・山根先生の体験談は本当によくわかりました。私のクラスにも人工内耳の生徒がいます。彼女もいつも活発な生徒ですが、きっと先生のような苦勞をしているのだと思いながら話を聞いていました。ありがとうございました。 ※CI：人工内耳

【地域支援】

- ・とても分かりやすかったです。即、使える情報がいっぱいでした。地域支援に関っているので助かりました。ありがとうございました。
- ・職場の先生たちにも聞かせたいお話でした。私が学んだことを伝えていくのだと思い、真剣に学ばせて頂きました。子ども達への啓発の参考にもなりました。

【幼小自立活動】

- ・中井先生のお話はとてもわかりやすく勉強になりました。幼児期に十分な対話がなかった子どもを担当しています。幼児期に育てたい力を参考に10歳ですが取り組んでいきたいと思



ました。継続して取り組みを進めていきたいです。

・”自然にことばを身に付ける”という点で、手話をベースに日本語の獲得をはかる道筋を知ることができました。手話単語が豊富で日本語の語彙を押し付けてしまうというのではなく、結びつける、手話を活用するというのは手話ベースの子どもに大切なことだと思います。

【補聴器・人工内耳の事例検討】

・いろいろなケースの話を聞けて、しかも各校の先生方の専門的な話がきけたのでとても勉強になりました。

・とても専門的な内容で分からないこともありましたが、普段あまりお聞きすることのない支援部の先生方の事例検討をお聞きすることができ、大変興味深かった。



☆ 運営について（開催時期、講座の時間、講座数、講座の内容など）

県外からの参加（10年ぶり）でしたが、アクセスもしやすく、設備も整っており、講座の内容も充実していてよいと思う/できれば8月の下旬だと嬉しいです/18日の講演、手話通訳以外の情報保障もあればいいと思った/19日の受講では机がほしいと思いました/昼食持参は今まで不可（アウィーナ大阪）と思っていたので柔軟な対応に好感がもてました/会場は1日目がアウィーナ、2日目が生野聴覚支援学校と午後からの移動がなく、ありがたいです/通訳が暗くてよく見えない。顔が影にならないように照明をつけてほしい。

☆ 来年はこんな話をききたい・・・

聴覚障害の方の話・座談会/重複生徒(知的と聴覚の重複)の指導と支援/合理的配慮/障害者差別解消法/幼児期の発達段階と言語指導/言語力・音韻意識/難聴疑似体験/要約筆記/語音明瞭度検査/聾学校の教育課程の実際/個別の教育支援計画・指導計画の実際/組織としての自立活動/聴覚活用と手話/通級指導の諸問題/交流及び共同学習/実践交流/大学の情報保障から聾学校が学べる事/地域支援/教育相談/音声処理や音声分析/医療の最新情報/人工内耳のリハビリの実際/ICT活用/イヤーマールドの作成実技/様々な補聴機器・関連グッズの説明や体験/研究報告/
※数多くのご意見や、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。

今後の予定

平成28年

10月29日(土) 秋の講演会(大阪市:味覚糖UHA館)
「発達障害を併せ持った難聴児への支援」

平島 ユイ子先生(国際医療福祉大学 准教授)

12月上旬 冬の学習会の案内 機関紙57号 発行

平成29年

1月27日(金) 第3回代表委員会(兵庫県立姫路聴覚特別支援学校)

1月28日(土) 冬の学習会(姫路市:姫路市民会館)

「乳幼児の語彙の習得(仮)」

今井 むつみ先生(慶應義塾大学 教授)

3月下旬 集録第18号発行・機関誌58号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局 事務局長 安川 恵理

〒655-0013

TEL: 078-709-9301

兵庫県神戸市垂水区福田1-3-1

FAX: 078-709-0371

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校内

メール: yasukawa_eri@hyogo-c.ed.jp